

第3章 次世代社会基盤創造人財の育成モデルプログラムに対応した パイロット事業の実施

3-1 パイロット事業の実施概要

(1) 趣旨等

パイロット事業では、地域経済を担う人材として大学生に着目し、以下の視点によるプログラムを作成し、その効果について検証した。

- ①地域への関心度向上と定着意識の醸成
 - ・“三遠南信地域のことを知り、地域に関心を持ってもらう”
- ②地域は様々な問題を内包していることの意識醸成
 - ・“三遠南信地域には固有課題・共通課題が内包し、過疎地だけに限定されていない”
 - ・“次世代社会基盤創造分野(*1)の必要性の認識”
- ③地域とのコミュニケーションの実施
 - ・“地域との実際のコミュニケーションによる地域問題の意識化”

(*1)次世代社会基盤創造分野とは

- ①地域に内包する社会的な問題・課題をビジネス的に解決するような社会的企業分野
 - ・自然資源分野：森林ビジネス、地域資源活用ビジネス等
 - ※特に、森林ビジネスでは地球環境、森林保全、エネルギー利用、林業振興等に着目する。
 - ・地域づくり分野：まちづくりビジネス、中山間地ビジネス等
 - ※まちづくりビジネスでは、多文化共生等を含める。
 - ・安心安全分野：食・農ビジネス、福祉介護・医療ビジネス等
 - ※特に、食・農ビジネスでは、郷土の食文化等に着目する。
- ②持続可能な社会基盤としての水、エネルギー、食料に関わる分野
 - ・環境保全に配慮した持続的な水資源の安定的な確保に関する分野
 - ・生活、産業（農業を含める）に関わるエネルギーの循環の分野
 - ・日本の食料基地として維持発展していくための農業の6次産業化振興分野等
- ③地域課題の解決に繋がる産業の業際分野
 - ・地域課題（人口減少社会、高齢化社会における都市、農村、山間地の課題等）を解決するような理工系、文科系等の業際分野
 - ※例：遠隔医療の開発：医療内容（医系）、医療機器（理工系）、過疎地（文科系）の融合による業際分野等

出典：「平成23年度官民連携主体による地域づくり推進事業」

(2) 実施概要

三遠南信地域の中で、大学の立地が多い「東三河地域」、「遠州地域」を対象として、パイロット事業の受入大学を選定し、受入大学とのプログラム内容の調整等を行い、実施した。

表 3-1-1 パイロット事業の実施概要

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">プログラム</p>	<p>1. 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業は3回（ワークショップ2回、フィールドワーク1回）に分けて実施する。 ・ワークショップは選定した大学内の施設で行い、フィールドワークは屋外に実際に出向き、意見交換を行う。 ・学生同士の意見交換を円滑に進めるため、ワークショップ形式を導入し、予め、5～6人程度グループに分け、リーダーを決めて意見交換を進める。 ・意見交換した結果は必ずグループ毎に発表する。 <p>※本事業では<u>次世代社会基盤創造分野</u>を「ソーシャルビジネス」と称している。</p> <p>2. プログラム内容</p> <p>(1) 第1回セミナー</p> <p>①ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域事情や地域課題等の認知とそれに対する意見交換 <p>②プログラム内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の趣旨説明、三遠南信地域の実情の説明 ・身近な地域の課題に対する意見交換 <p>※人口減少や、生産労働力人口の減少等を考慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域問題を解決するソーシャルビジネスの説明 ・身近な地域課題に対するソーシャルビジネスの可能性に対する意見交換 <p>(2) 第2回セミナー（フィールドワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な地域実践活動の場に出向き、活動家との意見交換の実施 <p>(3) 第3回セミナー</p> <p>①フィールドワークに対する意見交換</p> <p>②地域課題に対するソーシャルビジネスについての意見交換と具体的なビジネス内容の検討等</p>		
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施先</p>	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(東三河地域)</p> <p>①受入大学：豊橋創造大学 同大学の学生(12名)を対象に実施</p> <p>②実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年10月20日 13:00～16:00 豊橋創造大学 B22 教室 ・第2回 平成24年11月10日 12:45～16:30 NPO 法人ゆずりは学園(田原市) ・第3回 平成24年12月15日 13:00～16:00 豊橋創造大学 D43 教室 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(遠州地域)</p> <p>①受入大学：浜松学院大学 同大学の学生・静岡大学の学生(11名)を対象に実施</p> <p>②実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年11月28日 13:00～16:00 浜松学院大学 1202 教室 ・第2回 平成24年12月8日 12:30～17:00 うなぎいもプロジェクト(浜松市) ・第3回 平成24年12月19日 13:00～16:00 浜松学院大学 1202 教室 </td> </tr> </table>	<p>(東三河地域)</p> <p>①受入大学：豊橋創造大学 同大学の学生(12名)を対象に実施</p> <p>②実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年10月20日 13:00～16:00 豊橋創造大学 B22 教室 ・第2回 平成24年11月10日 12:45～16:30 NPO 法人ゆずりは学園(田原市) ・第3回 平成24年12月15日 13:00～16:00 豊橋創造大学 D43 教室 	<p>(遠州地域)</p> <p>①受入大学：浜松学院大学 同大学の学生・静岡大学の学生(11名)を対象に実施</p> <p>②実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年11月28日 13:00～16:00 浜松学院大学 1202 教室 ・第2回 平成24年12月8日 12:30～17:00 うなぎいもプロジェクト(浜松市) ・第3回 平成24年12月19日 13:00～16:00 浜松学院大学 1202 教室
<p>(東三河地域)</p> <p>①受入大学：豊橋創造大学 同大学の学生(12名)を対象に実施</p> <p>②実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年10月20日 13:00～16:00 豊橋創造大学 B22 教室 ・第2回 平成24年11月10日 12:45～16:30 NPO 法人ゆずりは学園(田原市) ・第3回 平成24年12月15日 13:00～16:00 豊橋創造大学 D43 教室 	<p>(遠州地域)</p> <p>①受入大学：浜松学院大学 同大学の学生・静岡大学の学生(11名)を対象に実施</p> <p>②実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成24年11月28日 13:00～16:00 浜松学院大学 1202 教室 ・第2回 平成24年12月8日 12:30～17:00 うなぎいもプロジェクト(浜松市) ・第3回 平成24年12月19日 13:00～16:00 浜松学院大学 1202 教室 		

表 3-1-2 東三河地域におけるパイロット事業の実施概要

	内 容
<p>第1回</p>	<p>平成 24 年 10 月 20 日（土） 13:00～16:00 場 所：豊橋創造大学 B22 教室 テーマ：地域を学び、地域の問題を考えてみよう 内 容：三遠南信地域の地域状況、ソーシャルビジネスを考える 参加者：10 名 ※(株)サイエンス・クリエイト コーディネーター 中野和久氏を交えた意見交換の実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第2回</p>	<p>平成 24 年 11 月 10 日（土） 12:45～16:30 場 所：NPO 法人ゆずりは学園（田原市） テーマ：ソーシャルビジネスの体感 内 容：引きこもりや登校拒否者に対する支援施設の見学と経営者との意見交換 参加者：12 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第3回</p>	<p>平成 24 年 12 月 15 日（土） 13:00～16:00 場 所：豊橋創造大学 D43 教室 テーマ：地域問題を解決できるビジネスを考える 内 容：ソーシャルビジネスの検討・チャレンジ 参加者：10 名 ※(株)サイエンス・クリエイト コーディネーター 中野和久氏を交えた意見交換の実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

表 3-1-3 遠州地域におけるパイロット事業の実施概要

	内 容
<p>第1回</p>	<p>平成 24 年 11 月 28 日 (土) 13:00~16:00 場 所：浜松学院大学 1202 教室 テーマ：地域を学び、地域の問題を考えてみよう 内 容：三遠南信地域の地域状況、ソーシャルビジネスを考える 参加者：11 名 ※(株)サイエンス・クリエイト コーディネーター 中野和久氏を交えた意見交換の実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第2回</p>	<p>平成 24 年 12 月 8 日 (土) 12:30~16:30 場所：うなぎいもプロジェクト実施場所(浜松市内) (栽培農地、加工場、販売店) テーマ：ソーシャルビジネスの体感 内 容：ウナギの廃棄物を利用したいも栽培と、栽培したいもを利用した加工品づくりの関係施設の見学と経営者との意見交換 参加者：7 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>第3回</p>	<p>開催日 平成 24 年 12 月 19 日 (水) 13:00~16:00 場 所：浜松学院大学 1202 教室 テーマ：地域問題を解決できるビジネスを考える 内 容：ソーシャルビジネスの検討・チャレンジ 参加者：8 名 ※(株)サイエンス・クリエイト コーディネーター 中野和久氏を交えた意見交換の実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

3-2 参加者アンケート調査結果の分析

(1) 第1回の実施結果

第1回では、主に三遠南信地域の実情についての説明と、身近な地域の問題について討議した。説明は、同じ資料を利用しているが、参加した学生の多くは「理解できた」（「まあまあ理解できた」を含む）と回答している（表 3-2-1）。三遠南信地域のソーシャルビジネスについては、「まちづくり・中山間地ビジネス」に対する関心が高い（表 3-2-2）。また、第1回の内容が、学生生活や就職活動等に役立ちそうかとの視点では、「どちらかといえばそう思う」を含めると役立ちそうと感じている（表 3-2-3）。来年以降のソーシャルビジネスを学ぶセミナー等への参考希望では、約6割程度が参加したいと考えている（表 3-2-4）。

表 3-2-1 第1回研修における三遠南信地域等の理解度

	東三河地域	遠州地域	全体
①理解できた	2人 (20%)	5人 (45%)	7人 (33%)
②まあまあ理解できた	7人 (70%)	3人 (27%)	10人 (48%)
③どちらともいえない	1人 (10%)	3人 (27%)	4人 (19%)
④どちらかといえば分かりにくかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤分かりにくかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	10人	11人	21人

表 3-2-2 第1回研修におけるソーシャルビジネスに対する関心度

	東三河地域	遠州地域	全体
①森林ビジネス、地域資源活用ビジネス等	1人 (11%)	1人 (10%)	2人 (11%)
②まちづくりビジネス、中山間地ビジネス等	4人 (44%)	7人 (70%)	11人 (58%)
③食・農ビジネス、福祉介護・医療ビジネス等	4人 (44%)	2人 (20%)	6人 (32%)
有効回答数	9人	10人	19人

表 3-2-3 第1回研修における研修内容の活用可能性

	東三河地域	遠州地域	全体
①そう思う	3人 (30%)	6人 (55%)	9人 (43%)
②どちらかといえばそう思う	6人 (60%)	5人 (45%)	11人 (52%)
③どちらともいえない	1人 (10%)	0人 (0%)	1人 (5%)
④どちらかといえばそう思わない	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤そうは思わない	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	10人	11人	21人

表 3-2-4 第1回研修におけるソーシャルビジネスを学ぶ機会への参加意向

	東三河地域	遠州地域	全体
①参加したい	1人 (10%)	6人 (55%)	7人 (33%)
②どちらかといえば参加したい	5人 (50%)	2人 (18%)	7人 (33%)
③どちらともいえない	1人 (10%)	3人 (27%)	4人 (19%)
④どちらかといえば参加したくない	1人 (10%)	0人 (0%)	1人 (5%)
⑤参加したくない	2人 (20%)	0人 (0%)	2人 (10%)
有効回答数	10人	11人	21人

(2) 第2回の実施結果

第2回では、ソーシャルビジネスを実際に実施している「NPO 法人ゆずりは学園」、「うなぎいもプロジェクト」に出向き、事業説明と意見交換を行った。

視察先の取り組み内容の理解では、参加した学生の多くは「理解できた」（「まあまあ理解できた」を含む）と回答している(表 3-2-5)。視察先に伴った地域課題についての認知では、「まあまあ知ることができた」を含めると認知度は高まった(表 3-2-6)。また、地域課題に対する取り組むことの重要では、「まあまあ理解することができた」を含めると重要であるとの理解を深めることができた(表 3-2-7)。視察を終えて、地域の社会的課題を学んでみたいと思ったかについては、「まあまあ思った」を含めると社会的課題に対する学んでみたいとする意向が高まり(表 3-2-8)、自分たちでできることを考えることの必要性を感じるようになった(表 3-2-9)。

(NPO 法人ゆずりは学園)



「ゆずりは学園」では
仲間づくりともうひとつの家族、社会への自立を求めて様々な活動を行っています。

2001年5月、発達障害・アスペルガー障害や不登校、ひきこもりの児童、生徒のために三河湾、森を自然環境に持つフリースクールを設立(高校生の通信制サポート校)。カウンセリングは箱庭療法、描画分析も実施。親子の心に寄り添う相談をしている。学校、児相、病院、保健所、社協などと連携しながら、開校以来約1700名の相談、対応をしている。

里山作り、親の会(毎月第2金)、サマーキャンプも実施。2006年10月より県の通院リハビリテーション事業としてひきこもり青年を受け入れている。これまでのフリースクールの活動をまとめた「ドアのない部屋から」(本の泉社)を出版。2008年4月、星槎大学サテライトカレッジを開校。2008年6月、特定非営利活動法人 ゆずりは学園開校。小学校から青年までの社会への自立支援を行っている。

(2010年12月現在)

(うなぎいもプロジェクト)

新規雇用の創出

- 新規就農者独立支援
- 農業トライアル雇用の推進
- うなぎいもや、うなぎいもの加工品を扱う販売店、加工所、飲食店増加のためのPR活動
- 障害者施設への作業委託

うなぎいもプロジェクトのコンセプト

甘くて、栄養満点なおいしいうなぎいもを少しでも多くの人に食べてもらいたいのはもちろんですが、うなぎいもプロジェクトは地域経済の活性化を軸に、このようなコンセプトのもとに起動しました。

環境への取り組み

- 草木廃棄物やうなぎ残渣の回収、再利用化
- 環境に優しい草木チップやうなぎを用いた堆肥使用の統一化

食料自給率の向上

- 栽培ノウハウの情報集約と再提供
- 生産資材の一括仕入れ、全量買取
- 育苗、出荷調整、流通、販売の集約化
- 耕作放棄地の解消



遠州浜松 新名物
“うなぎいも”
を贅沢にたっぷり使いました。

とろける
スイートポテトのようなプリンです。

浜名湖産のうなぎの加工残渣を肥料にして、さつまいもを栽培(うなぎいも)し、そのいもを利用した新商品を開発し、農家及び関係産業の振興を目指している。

図 3-2-1 視察先の概要

表 3-2-5 第 2 回研修における視察先の取り組み内容の理解度

	東三河地域	遠州地域	全体
①とても理解することができた	4人 (33%)	7人 (100%)	11人 (58%)
②まあまあ理解することができた	8人 (67%)	0人 (0%)	8人 (42%)
③どちらとも言えない	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
④あまり理解することができなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤全く理解することができなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	12人	7人	19人

表 3-2-6 第 2 回研修における地域が持つ課題に対する認知

	東三河地域	遠州地域	全体
①とても知ることができた	0人 (0%)	4人 (57%)	4人 (21%)
②まあまあ知ることができた	7人 (58%)	3人 (43%)	10人 (53%)
③どちらとも言えない	4人 (33%)	0人 (0%)	4人 (21%)
④あまり知ることができなかった	1人 (8%)	0人 (0%)	1人 (5%)
⑤全く知ることができなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	12人	7人	19人

表 3-2-7 第 2 回研修における地域課題に対してソーシャルビジネスとして取り組むことの重要性

	東三河地域	遠州地域	全体
①とても理解することができた	5人 (42%)	6人 (86%)	11人 (58%)
②まあまあ理解することができた	6人 (50%)	1人 (14%)	7人 (37%)
③どちらとも言えない	1人 (8%)	0人 (0%)	1人 (5%)
④あまり理解することができなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤全く理解することができなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	12人	7人	19人

表 3-2-8 第 2 回研修における地域の社会的課題に対する学びの意向

	東三河地域	遠州地域	全体
①とても思った	4人 (33%)	5人 (71%)	9人 (47%)
②まあまあ思った	6人 (50%)	2人 (29%)	8人 (42%)
③どちらとも言えない	2人 (17%)	0人 (0%)	2人 (11%)
④あまり思わなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤全く思わなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	12人	7人	19人

表 3-2-9 第 2 回研修における地域の社会的課題に対して自分達で何ができるかを考える必要性

	東三河地域	遠州地域	全体
①とても感じた	5人 (42%)	4人 (57%)	9人 (47%)
②まあまあ感じた	7人 (58%)	3人 (43%)	10人 (53%)
③どちらとも言えない	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
④あまり感じなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤全く感じなかった	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
有効回答数	12人	7人	19人

(3) 第 3 回の実施結果

今回パイロット事業に参加し、三遠南信地域に関心を持ったかについては、「まあまあ関心を持つようになった」を含めると、三遠南信地域に何らかの関心を持つようになったことが確認された(表 3-2-10)。

具体的に関心を持った分野では、「まちづくり」(44%)、「農業・漁業・林業について」(39%)、「地域の中小企業・NPO について」(39%)、「登校拒否・ひきこもり等」(33%)となっており(表

3-2-11)、みんなとの話し合いや、視察先の事情（NPO・中小企業を対象、農業・登校拒否を対象等）が大きく影響していることがわかる（表 3-2-12）。

また、今回のパイロット事業に参加し、地域の課題解決のために何かしていこうかといった意識変化をみると、「できるだけ、何かしていきたい」（53%）とする意識が芽生えていることがわかる（表 3-2-13）。

表 3-2-10 全体を通じた三遠南信地域への関心

	東三河地域	遠州地域	全体
①非常に関心を持つようになった	3人 (30%)	2人 (40%)	5人 (33%)
②関心を持つようになった	4人 (40%)	3人 (60%)	7人 (47%)
③まあまあ関心を持つようになった	3人 (30%)		3人 (20%)
④以前と変わらない			
有効回答数	10人	5人	15人

表 3-2-11 関心を持った分野

	東三河地域	遠州地域	全体
①工業について		1人 (13%)	1人 (6%)
②商業について（商店街等も含む）	2人 (20%)	2人 (25%)	4人 (22%)
③農業・漁業・林業について	4人 (40%)	3人 (38%)	7人 (39%)
④福祉・介護・医療について	3人 (30%)	1人 (13%)	4人 (22%)
⑤リサイクルや資源循環について		1人 (13%)	1人 (6%)
⑥地域の中小企業・NPOについて	4人 (40%)	3人 (38%)	7人 (39%)
⑦労働環境、雇用について	2人 (20%)	1人 (13%)	3人 (17%)
⑧高齢者・障害者について	3人 (30%)	1人 (13%)	4人 (22%)
⑨登校拒否・ひきこもり等について	5人 (50%)	1人 (13%)	6人 (33%)
⑩森林保全、水域の水質保全等の環境	1人 (10%)	1人 (13%)	2人 (11%)
⑪公共交通について	2人 (20%)	1人 (13%)	3人 (17%)
⑫都市の問題について	1人 (10%)	1人 (13%)	2人 (11%)
⑬過疎や山間地の問題について		2人 (25%)	2人 (11%)
⑭まちづくりについて	6人 (60%)	2人 (25%)	8人 (44%)
⑮地産地消等の地域由来の食物等		2人 (25%)	2人 (11%)
⑯その他			
⑰特段に関心を持った分野はない			
有効回答数	10人	8人	18人

表 3-2-12 関心を持った理由

	東三河地域	遠州地域	全体
①配布された資料をみて関心をもった	2人 (20%)	2人 (25%)	4人 (22%)
②みんなとの話し合い（ワークショップ）の中で関心をもった	10人 (100%)	4人 (50%)	14人 (78%)
③2回目に視察した機関（会社、NPO等）の話聞いて関心を持った	5人 (50%)	1人 (13%)	6人 (33%)
④普段から関心を持っていた	1人 (10%)	1人 (13%)	2人 (11%)
⑤その他			
有効回答数	10人	8人	18人

表 3-2-13 受講後に地域の課題解決に対する意識変化

	東三河地域	遠州地域	全体
①是非、何かしていきたい		2人 (40%)	2人 (13%)
②できるだけ、何かしていきたい	5人 (50%)	3人 (60%)	8人 (53%)
③何かしていきたいと思うが、難しい	5人 (50%)		5人 (33%)
④特段にそう思っていない			
有効回答数	10人	5人	15人

3-3 パイロット事業の展開方向

(1) パイロット事業の効果

パイロット事業に参加して良かった点では、「他の学生と一緒に意見交換できてよかった」(44%)が最も大きく、学生間の討議がよかったとしている(表 3-3-1)。

また、パイロット事業のプログラムについては、ワークショップ形式の導入では、全員が「体験できてよかった」、「色々な意見が聞けて面白かった」と回答している(表 3-3-2)。今後、関心あるテーマであれば、ワークショップに参加したいかは、「そう思う」(約 80%)が最も高い(表 3-3-3)。

視察会の体験は、ほとんどが「体験できてよかった」と回答しており、話のおもしろさ、視察会への参加意向も高くなった(表 3-3-4~5)。

表 3-3-1 今回のパイロット事業内容の良かった点

	東三河地域	遠州地域	全体
①地域の実態が色々とわかってよかった	2人 (20%)	2人 (25%)	4人 (22%)
②地域の課題が色々あることがわかってよかった	4人 (40%)	2人 (25%)	6人 (33%)
③他の学生と一緒に意見交換できてよかった	7人 (70%)	1人 (13%)	8人 (44%)
④他の大学の学生と一緒に考えられてよかった	2人 (20%)	2人 (25%)	4人 (22%)
⑤特色ある企業・NPOを視察できてよかった	3人 (30%)	1人 (13%)	4人 (22%)
⑥ソーシャルビジネスのことがよくわかった	-	-	-
⑦その他	-	-	-
有効回答数	10人	8人	18人

表 3-3-2 ワークショップについて

(ワークショップを体験できて良かったか)

	東三河地域	遠州地域	全体
①そう思う	9人 (100%)	6人 (100%)	15人 (100%)
②どちらとも言えない			
③そう思わない			
有効回答数	9人	6人	15人

(ワークショップで色々な人の意見を聞いて面白かったか)

	東三河地域	遠州地域	全体
①そう思う	9人 (100%)	6人 (100%)	15人 (100%)
②どちらとも言えない			
③そう思わない			
有効回答数	9人	6人	15人

表 3-3-3 今後の関心のあるテーマのワークショップ参加意向

	東三河地域	遠州地域	全体
①そう思う	6人 (67%)	6人 (100%)	12人 (80%)
②どちらとも言えない	2人 (22%)		2人 (13%)
③そう思わない	1人 (11%)		1人 (7%)
④わからない			
有効回答数	9人	6人	15人

表 3-3-4 視察会に参加して良かったか

	東三河地域	遠州地域	全体
① そう思う	8人 (89%)	4人 (80%)	12人 (86%)
② どちらとも言えない	1人 (11%)		1人 (7%)
③ そう思わない			
参加していない		1人 (20%)	1人 (7%)
有効回答数	9人	5人	14人

表 3-3-5 NPO・企業等の視察に参加したい

	東三河地域	遠州地域	全体
① そう思う	5人 (56%)	4人 (80%)	9人 (64%)
② どちらとも言えない	4人 (44%)		4人 (29%)
③ そう思わない			
参加していない		1人 (20%)	1人 (7%)
有効回答数	9人	5人	14人

パイロット事業内容についての単位認定について、単位認定した場合の受講意向では、多くの学生が受講したいと考えている(表 3-3-6)。また、色々な大学の学生間の意見交換機会の場については、多くの学生が参加したいと考えている(表 3-3-7)。

表 3-3-6 パイロット事業内容を単位認定した場合の受講意向

	東三河地域	遠州地域	全体
① 是非参加したい		5人 (83%)	5人 (33%)
② 参加したい	8人 (89%)	1人 (17%)	9人 (60%)
③ どちらとも言えない	1人 (11%)		1人 (7%)
④ 余り参加したくない			
⑤ 参加したくない			
有効回答数	9人	6人	15人

表 3-3-7 異なる大学の学生間の意見交換機会の場に対する参加意向

	東三河地域	遠州地域	全体
① 是非参加したい		3人 (50%)	3人 (20%)
② 参加したい	5人 (56%)	3人 (50%)	8人 (53%)
③ どちらとも言えない	2人 (22%)		2人 (13%)
④ 余り参加したくない			
⑤ 参加したくない	2人 (22%)		2人 (13%)
有効回答数	9人	6人	15人

(2) パイロット事業のプログラムについて

今回は、2つの大学を対象にパイロット事業を実施したが、概ね以下の成果を得られたと考えている。

- ① 三遠南信地域の実情の説明等を行うことによる地域への関心度向上
 - ・ 三遠南信地域の実情の説明や、身近な地域課題を考えることにより、地域への関心度が高まることが確認された。

②ワークショップの有効性

- ・ワークショップ形式によって参加した学生が意見を出し合い、意見のとりまとめを発表するスタイルは、学生自らの自主性を高め、発表では何に焦点を置けばよいのかを考える良い機会になったと考えられる。

③フィールドワーク

- ・視察会では、実際にソーシャルビジネスを行う方々と学生自らが意見交換を行うことで、地域に対する関心を高めることに貢献したと考えられる。

この結果から、人財育成の方向としては、地域への関心を高めるような活動（情報提供と地域課題に関する意見交換）、フィールドワークを組み合わせていくことが必要であり、大学と地域企業（ソーシャルビジネスを実施している機関等）との連携によって、こうした事業活動基盤について、今回の活動を契機に、SENAを中心に整備していくことが重要である。また、意見交換の仕組みとして、ワークショップ形式の有効性が確認されたため、地域のまちづくりの支援機関や他大学の学生等と連携しながら、できるだけ多くの方々がワークショップに参加し、意見交換できるような体制を整備していくことが必要である。